

## UUCollege・Newsletter

No.5

UUカレッジの受講の理由に、教養を身に付けたいという場合もあるかと思いますが、今号では、廣瀬先生、田巻先生に「教養とはなにか」というテーマで普段のお考えを寄せていただきました。

コーディネーター 廣瀬 隆人



ChatGPTでも「教養」は「豊かな人間性や深い理解を含む、幅広い教養や教育を指す言葉」として解説されている。ここでは、かつて学部の学生に説明してきたものを紹介しておくこととする。学校教育での学習は、主として一つの「正解」を出すことに力を注いできた。ところが現実の社会は、「正解は一つではない」のだ。変化の中で生きていくためには、「正解」を求める学習だけでは対応できない。いくつもの正解の中で、他の人々の考え方を聴き、意見の違いを理解して、自分の意見も話して、共生していける力をつけておかななくてはならない。

「物ごとにはいろいろな見方や考え方があるのだ」「正解はいくつもあるのだ」ということを学ぶ必要がある。専門的な知識や技術を学ぶだけでは、予想もできない困難に立ち向かうことができない。多様な学問や文化、芸術を幅広く学ぶことによって、専門知識や技術を十分に生かすことができる。同時に、多様な見方ができるというは、「他の人の言っていることを鵜呑みにしない」ということでもある。どんな偉い人が言ったことでも、必ずしも正しくないかもしれない。ある時代のある場所では正しくても、ほかのところでは通用しないかもしれない。やはり、「全ては疑い得る」(Karl Marx)である。だからすぐに信じてしまうのではなく、自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の言葉で納得し、自主的に判断し行動する人になること。これが主体形成。自分で判断するためには、多くのことを学ばなくてはならない。リベラルアーツはさまざまな学問領域を積極的に学ぶことで、現実の社会で活躍し、豊かな人生を送ることができる総合力のある人間の育成を目指している。そのために重要なことは、自分の経験を問い直すということだ。これまでの経験によってなんとか生きていけそうだが、より豊かに生きるためには、自分の経験を批判的に省察することだ。そして、学び、アップデートするしかない、経験に新しい知識を加えた更新プログラムである。上書き保存したら良いのか、ゴミ箱に入れるのが良いのかわからないときもあるが、とりあえずはフォルダに保存しておこう。UUカレッジは更新プログラム実施中なのかもしれない。自分をバージョンアップし、リノベーションしている。新しい自分に会えるのは結構楽しいものだ。

メンター 田巻 松雄



「問題意識は、あるテーマやそれについて提示された結論が、研究者自身にとって、あるいは社会にとって、あるいは社会学にとってどのような意味を持つかを問いかける。また問題意識は研究テーマや目指されている理論的結論との関連性を意識しながら、必要なデータの選択を可能にする。したがって、問題意識のない社会学研究は、そもそも存在する価値がない」（『問題意識と社会学研究』、24ページ）。「そして、不滅のメッセージは、まさに、社会学研究には問題意識が何よりも重要であること、そしてそれは社会的現実にたいする関与を前提としなければならない」（同上、50頁）。

大学時代の恩師が絶えず投げかけてきたことは「問題意識」の大事さであった。私は、2022年3月に行った最終講義で「社会学的・国際学の問題意識をベースとする10のメッセージ」と題して、様々な社会的事実への関与を通じて培ってきた問題意識や人間としての在り方・生き方に関する「知」を振り返り、発信した。列举すれば、「1 緊張（私は実はすごく緊張している）」、「2 こんな稼業を笑わば笑え」、「3 適格者主義ではなく、受け入れて育てる」、「4 声なき声に代わり発信する」、「5 多様な学びの場は地域で支える」、「6 始めることが一歩で、やりながら考える」、「7 選べない「偶然」にどれだけの責任を感じるか」、「8 『生の偶然性』への自覚」、「9 弱者と呼ばれる人々の人権と秘められたパワーに対する尊敬を土台にした寄り添いと応援」、「10 多文化共生とは、仲良くすることをめざすのではなく、殺しあわない関係の構築をめざすこと」となる。これらのメッセージは、各人にとっての教養の意味を考える一助になると思う。退職後2年の経験を踏まえ1つ追加するなら、「11 考えてみたいカー『待つ力』」となるだろうか。1つ1つのメッセージやメッセージ総体としての意味や課題については、ぜひ対話できることを願っている。

いよいよ新企画であるメンターゼミがスタートいたしました。宇都宮大学元教員であるメンター・コーディネーターの現代社会の課題といってもよいホットなテーマがならんでおります。発表や活発な議論等を通して、自主的な学びの掘り下げにお役立てください。

(受講料:無料 期間:R6 年度前期内の予定ですが一部ゼミは後期も継続いたします。)

- 田巻ゼミ テーマ「公立・自主夜間中学の現代的意義と課題」
- 伊東ゼミ テーマ「地震の科学と地震防災」
- 川田ゼミ テーマ「エネルギーと私たちの未来」
- 廣瀬ゼミ テーマ「地域づくりと成人教育」 特別講座「アイヌ文化を対談と実物で学ぶ」

### メンターゼミの様子

伊東ゼミ



田巻ゼミオリエンテーション

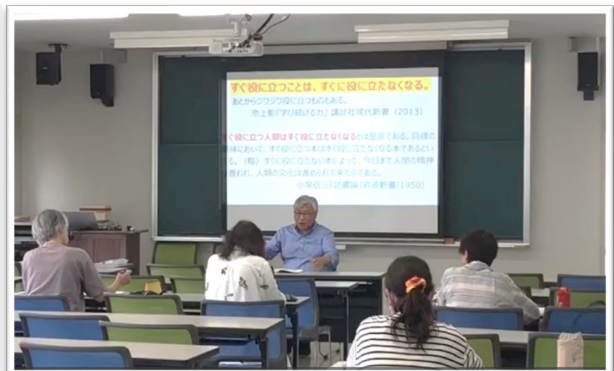


「アイヌ文化を対談と実物で学ぶ特別講習」の様子

川田ゼミ



廣瀬ゼミ



## UUカレッジの楽しみ ～メンターゼミの醍醐味～

メンターゼミに参加している受講者から、上記テーマでゼミの様子や感想等をうかがいました。

### 田巻ゼミ「公立・自主夜間中学の現代的意義と課題」について 1期生 長谷川 道夫

メンター先生によるゼミが開催される1年程前から事務局の廣瀬先生に対して「メンターの先生の講義を拝聴したい。」と個人的に声掛けさせて頂いておりました。廣瀬先生のお答えは「うん。私も今少し考えているんだ。ちょっと待って」というものでした。第1期の聴講の時から、廣瀬先生の「うん。今いろいろ考えているから…」というコメントは何度か伺いました。受講者にとって嬉しい新しい場面を用意して下さっている事を経験知として知っておりましたが、今回のメンターの先生によるゼミは待望の結果でした。しかも、講義料が0円というのはなんと太っ腹です。

さて、前置きが長くなりましたが 田巻先生のテーマに手を挙げましたのは、2019年12月にUUカレッジ事務局からの紹介で「夜間中学映画」を5C21教室で見た時に講演してくださいました先生の話しを伺ったという事と、映画「学校」を見ていた事が元にあります。そして実際にゼミが始まってみると、大いに驚いた事がありました。それは同テーマのゼミを2班に分けて行うとの事でした。参加者の希望日程が合わないからと、2班に分けてのゼミを用意して下さった姿に田巻先生の人柄を見ると同時に、夜間中学をボランティアで長年継続して社会（文科省/教育委員会）と戦って来た原点を見る思いでした。受講しているゼミは、先生と八木澤氏と私の3人だけ。まるで個人レッスンです。先日、八木澤氏と時間待ちの会話では「2人きりではお互いに休めないね…」と。(ちなみに、もう1つの班は受講者5名で開催しています。)夜間中学の現状を知る為に準備して頂いた資料に目を通し始めたばかりですが、一般的な日本人の目に触れない場所で真剣に頑張ろうとしている人と、その人に寄り添いたいと思うスタッフの生きざまにちょっと心が震えております。

先に2班に分けてと記しましたが、廣瀬先生も私たちの都合を考慮して同様の対応をとって下さっています。また伊東先生・川田先生のゼミもと欲張って受講しております。

### 伊東ゼミ「地震の科学と地震防災」について 1期生 八木澤 恭子

伊東先生の「地震の科学と地震防災」のゼミを受けています。毎回資料をプリントでいただけるので、書き込みをしながら受けられるのは、アナログ派としてはうれしいことです。

「地球の近くとリンゴの皮はほぼ同じ厚さになる。」から始まって、地球の外観や、地震の科学についてわかりやすく解説していただいています。次回から地震災害・地震予知・地震防災について学ぶので、自分は地震災害にどう対処したらよいかを考えていきたいと思えます。

### 川田ゼミ「エネルギーと私たちの未来」について 2期生 小田川 典子

理系の思考回路を持たない私が「the 理系」という皆様に交わってエネルギー問題を考えるゼミに参加しています。限りあるエネルギー、限りある地球を目の当たりにして、危機感を強めました。

ゼミに参加することで、近い将来完成するであろう「核融合」(クリーンエネルギーをえられる技術)に期待しながらも、「今、なにをすべきか」と真剣に考える新しい自分に出会いました。

### 廣瀬ゼミ「地域づくりと成人教育」について 1期生 中谷 竹代

「すぐに役立つことは、すぐに役にたたなくなる」というテーマのお話でした。「学び」の姿勢を教えてくださいました。廣瀬先生のお話は、今まで見えていた風景に色が付き、風が吹きこんだようです。豊穡の海に泳ぎ出るときに伴走して下さる先頭者のようでした。次回もとても楽しみです。

# UUCollege ・ Newsletter

# No.4

令和 5 年度後期の**受講者アンケートの結果**をお知らせいたします。

アンケート回答へのご協力に感謝いたします。

## 40

応答



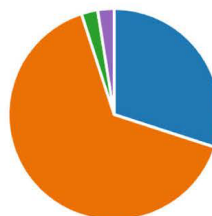
### 1. 何期生ですか？

● 1期生(2018年～)	14
● 2期生(2019年～)	12
● 3期生(2022年～)	5
● 4期生(2023年～)	9



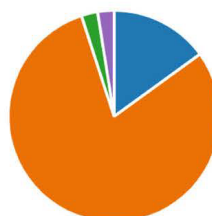
### 2. 受講した授業の満足度について

● とても満足している	12
● 満足している	26
● 満足していない	1
● とても不満	0
● 受講なし	1



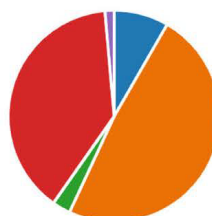
### 3. 受講した授業は理解しやすいものでしたか。

● とてもよく理解できた	6
● 大体理解できた	32
● あまり理解できない	1
● ほとんど理解できない	0
● 受講なし	1



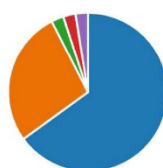
### 4. 授業を選択するときに重視することは何ですか。

● 学部の授業であるか、基盤の授業...	6
● 授業科目の内容に興味があるから	35
● 先生の人柄がよいから	2
● 受講しやすい曜日や時間帯だから	28
● その他	1



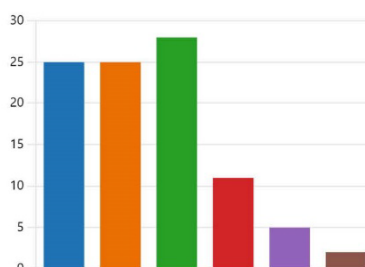
5. 受講のペースを教えてください。

週に1日	26
週に2日	11
週に3日以上	1
回数は気にしない	1
受講なし	1



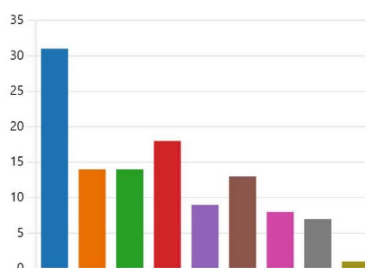
6. 大学の施設等の利用について、利用したことがあるものについてご回答ください。

図書館	25
生協食堂	25
UUカレッジラウンジ	28
ヒストリカルゾーン(UUプラザ、峰が丘...)	11
農産物販売	5
その他	2



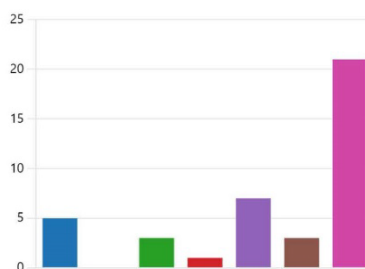
7. 次の項目のうち、ご自身にあてはまるすべての項目をご回答ください。

生活のリズムの中で大学に通うこと...	31
授業は理解できないこともあるが、...	14
内容とともに先生の人柄にふれるこ...	14
深い知識や理論を学ぶことができ、...	18
ともに学ぶカレッジの仲間や同士の...	9
大学に通うようになり、生活に張りが...	13
新しい知人や友人ができて、人と会...	8
職業経験を振り返ったり、現在の職...	7
どれもあてはまらない。	1



8. 次のような思いをしたことがありますか。

授業で使う言葉がわからなかったり、...	5
討論の時など学生や先生に指摘さ...	0
先生が早口で講義を理解しづらかつ...	3
内容が難解すぎて、もっとわかりやす...	1
講義の内容が期待していたものと異...	7
内容が平易すぎて、もっと高度な内...	3
どれもあてはまらない。	21



9. UU カレッジについての感想・要望等、自由に記述してください。

※紙面の都合上編集してあります。

### [感想]

- 毎期おもしろそうだなと思う科目を受講し、自分の目配り出来る範囲が広がったように思えて有り難い。
- 宇都宮大学の授業を受けられることは残された貴重な時間を使うことに十二分に値すると感じられた。
- 学び直しができる良い機会だと思います。
- 学生と同じ空間で学べる機会を提供していただけることに感謝しております。

- 単位取得なしで、大学の講義を受講できるという、貴重な機会を作ってくれたことに、心から感謝しております。
- コロナで2年間のロスがあったけど、あと半年で終業。楽しみながらやっています。
- 自分の知識を高めていく機会として、本講座を受講しています。
- 2科目を受講していますが、何方も期待した以上の内容でまた違った勉強ができ良かったとおもいます。
- 授業後、先生や学生、カレッジ生、(時にゲスト講師)と学食でランチをするのが、楽しかったです。
- 家庭や仕事場以外の自分の居場所ができて嬉しいです。
- まだ半年しか経っておらず、UUカレッジというものがよくわかっていませんが、自分が何を求めているのかを考えるのには良い機会でした。
- コロナも収束し対面授業が再開され充実した日々でした。
- 対面授業がはじまり、とても充実した毎日でした。
- 単なる暇つぶしくらいと思い通学しましたが、段々と楽しさが出てきて来期も続けようと思っています。
- 本システムはとても素晴らしいものだと思います。但し、自分の生活に上手く組み込めるかどうかの努力が必要になりますね。
- 時間が合わずなかなか授業が取れないのですが、もう少し頑張りたいと思います。
- リタイアしているので、参加が可能です。現役の社会人が参加するのは中々難しい。
- 時間の確保が必要です。今回は必要な知識が明確でしたので、とても役に立ちました。
- 授業の出席がわりのレポート提出が簡単なようでそうでもなく、週のうち1日をUUカレッジ受講日として3教科を目標にしましたが、授業のあとのレポート作成が自分の力量に追いつかないので最大2教科かと思います。
- パソコン操作はやはり大変です。
- 受講資料をペーパーで頂き、復習時に役立っています。今後ともよろしくお願いします。

[要望] ()内は要望をお寄せいただいた意見数です。

受講科目を増やしてほしい(3) 歴史・文学(1) 大学院(2) 語学(1)

授業の選択を行う自由度が低い(1)

学部の受講したい科目が「受入不可」になっている場合に、その先生と直接交渉してよいか(1)

受講できる期間をもっと延長してもらえたら嬉しい。(1)

1期生は、後期終了後再度授業を受けられる様にするには、いつ再申し込みをすればよいか(2)

クラスを活用して、親交を深める機会を増やしてほしい(1)

Web上に公開されているシラバスの誤字脱字、意味不明な日本語は校正していただきたい(1)

#### アンケートの要望に関して事務局より

- 受講可能科目については、受講許可の仕組みとあわせて R6 年後期より改変されます。
- 1期生の再受講につきましては、途切れなく受講をしたい方は R6 年度に、半年空いてもよい方は、R7 年度にお申し込みください。
- クラスの活用につきましては、ふり返り会などで取り入れてまいります。
- シラバスに関しては、事務局にお知らせください。

## コロナ感染症による受講・新規募集中止期間を経て 3期生 8名・4期生 12名のカレッジ生が新たに登録されました

### 年度別新規登録者・在籍者数

在籍者数(人) 新規登録者数(人)	2018年度	2019年度	2020年度～ 2021年度	2022年度	2023年度
1期生 2018年度	54 女17 男37	51 女16 男35	受講・新規募集 中止期間	35 女12 男23	27 女9 男18
2期生 2019年度		39 女18 男21		25 女10 男15	19 女7 男12
3期生 2022年度	—	—		8 女1 男7	7 女1 男6
4期生 2023年度	—	—		—	12 女4 男8
合計	54 女17 男37	90 女34 男56		68 女23 男45	65 女21 男44

## コロナ禍を超えて、つづく学びの世界

UU カレッジコーディネーター 廣瀬隆人

随分と間が空いたニュースレターNo.3になってしまいました。このかんの流れを振り返ってみましょう。例えば2020年2月3日横浜港に帰港したダイヤモンドプリンセス号は、乗客が新型コロナウイルス陽性であることが確認されたため、政府は乗員乗客の下船を許可せず、2月5日に検査結果よりCOVID-19陽性者が確認された……。遠い過去のように思えますが3年前の出来事でした。2020年4月から2022年9月(前期)までUUカレッジは休校となりました。この間、Zoomでの交流会や受講者への度重なるお知らせ、受講者交流のための近況報告集の刊行などが思い出されます。2022年後期からようやく対面授業が再開することとなりましたが、授業のあり方は大きく変化しました。全ての授業はC-learningが導入され、カレッジ受講者はこのシステムを操作して受講することになりました。地域デザイン科学部の若園准教授と学生の支援によるC-learning説明会が実施されました。このしくみにより、多くの受講者がC-learningを自分のノートパソコンに取り込んで資料をダウンロードしたり、担当教員と直接連絡をとったりすることができるようになりました。ほとんどの受講者がスマートフォンにもダウンロードし、休講連絡も円滑に情報が到達するようになりました。講義で使用する資料はほとんどPDFで配付され、自分のノートパソコンに取り込むことができるようになりました。欠席の際の資料がほしい、教室変更や宿題の連絡が届かないというトラブルも無くなりました。新型コロナウイルス感染症の影響によって、こうした利便性の高いシステムの導入によって、ストレスの少ない受講が可能となりました。反面、紙の印刷資料に親しんできた人々にとっては、味気なく寂しい思いもさせてしまったことも事実であり、20名を超える受講者がこのシステムの導入とともに受講を修了しました。現在ではこのシステムにも慣れてきて、多くの受講者が豊かな学びを楽しんでいます。

本号でも紹介していますが、受講者どうしのコミュニケーションも進んでおり、2023年度の大学祭にも参加して、授業だけでなく、大学のキャンパスライフも楽しんでいただいております。

今後は、より受講者の多様な学習要求に応えることができるようなしくみを開発してさらなる充実をはかっていきたいと思っております。

UUカレッジの楽しみ ～はじめての大学祭参加～

1期生 高尾 俊則

いつも授業だけ受けているけれど、大学祭にも参加してみたい。そんな人たちと仲間を募ってやってみようという事になりました。峰が丘祭はコロナ禍から復活して、制約がありながらも2年目を迎えようとしていました。

学祭総会というものがあるのをUUカレッジ事務室から教えてもらい、5月末から隔週、10月以降は毎週夕方に参加しました。毎回、次回までに提出する資料の作成を指示されます。私たちもグループに必要な10人以上を登録できましたが、仕事もあり授業もばらばら、全員集まるという事ができません。電子メールやライン、時にはカレッジのC-learningやラウンジにあるメールボックスも借用しながら連絡を取り合いました。コミュニケーションの難しさを感じる事もありましたが、きっと学生さん以上のデジタル利用集団になったのではないかと思います。

企画の締切りが5月末でその後は追加できないため、とりあえず多めに下記4案を提出しました。ところが気付けば屋内と屋外、計2店舗の多角経営のお店ができていました。まさか全部やるとは！手探り状態で始めたそのお店でしたが、ご来店のお客さんの多くが笑顔で買って行ってくださいました。これはそれぞれの企画を担当した委員の皆さんの頑張りに加え、カレッジ受講生や事務室の皆さんの多大なご協力と、温かい激励のおかげと感謝しています。テントの設営や会計などの裏方の仕事もありますが、その種の手際良さはさすがカレッジ生です。

終了後に借用品を返却に行ったとき、学生さんから「有難うございました。来年もよろしく願います。」と言葉をもらいました。そんな学生さん達と交流できた事も、素晴らしい経験だったと思います。かかわった全ての皆様に改めて感謝です。有難うございました。

活動の様子

- 焼き芋ブリュレ販売
- パン販売
- 地方物産販売
- 古本市





## 2期生39名入学。あわせて90名で後期がスタート

10月1日に2期生が39名入学し、後期の授業が開始されました。現在の受講者数の現況は次の通りです。

	2018	2019
1期生 2018年度 入学者数	54 女 17 男 37	51 女 16 男 35
2期生 2019年度 入学者数	—	39 女 18 男 21
合計	54	90

平成30年度の後期に入学した1期生54名のうち、3名は、2019年度前期をもって修了されました。それぞれ、所期の目的を達成された方、家庭の事情による方、受講を契機に新たな学習課題を発見されて修了された方でした。その中から、所期の目的を達成された三宅徹治さんの手記を裏面に掲載しましたのでご参照下さい。

三宅さんは後期、前期あわせて7科目を受講されました。選択された科目は、歴史、自然、心理、健康、国際関係など様々な分野をわたっており、ご自分の課題にアプローチされました。

他の受講者の方々の中にも、新しい学習課題の発見によって、大学院進学など次の学びへ向けて活動を開始されている方もいます。

受講科目数では、1科目が最も多く、次に2科目選択となっています。1期生では半期に4科目を受講された方が延べ5名いました。

延べの科目数としては、1期生、30年度後期が80科目、元年度前期が86科目、元年度後期が75科目です。2期生は元年度後期62科目となります。平均しますと1人1.6科目受講していることとなります。

## College Episode

8月29日、UUカレッジに学ぶ受講者相互の親睦を図ることを目的として、受講者の自主的な交流組織「UUカレッジの会」が設立されました。今後、会員有志による研修会、勉強会、親睦会など開催する予定です。会長に田中幸男さん、副会長に新見徹さん、会計に入江文乃さん、監事に大島和枝さん、丹生英昭さん、関澤美智子さんが就任しています。宇大側も天沼実ディレクター以下、コーディネーター、メンターが顧問に名前を連ねています。



設立の趣旨を説明する田中さん



設立総会直後の懇親会の様子。

懇親会には、天沼ディレクター、廣瀬コーディネーターが参加して、受講者との懇親を深めました。

## 1期生修了者の手記

# アクティブ・ラーニングって何だ

UUカレッジ 三宅徹治

社会に出てから宇都宮市関連の委員会や研修会に参加して、実に多くのワークショップが行われているのに驚きました。1960年代に教育を受けた私には経験のないものでした。「学生の受講成果は講師の知識を上回ることはない。教える者は、講義の何倍もの準備をせよ！」というのが常識でした。そんな感覚の私は、ワークショップはメンバーのレベル以上のものは生み出さないと考え、その有効性に疑問を持っていました。

調べてみるとワークショップのベースは、2012年中央教育審議会答申を受け、大学に本格的に導入されたアクティブ・ラーニング(※)にあるということが分かりました。

今回、UUカレッジに参加する機会を得て、アクティブ・ラーニングが大学のなかでどのように機能しているのかを体験したくなり、特に実践されているという基盤教育を7科目受講しました。科目の半分くらいは一方通行の従来型（私にはすんなり入ってきます）でしたが、残りはワークショップや毎回講義の最後に自分の意見を述べるリアクションペーパー提出といったアクティブ・ラーニングらしい形態でした。

ワークショップに参加して、学生が短時間に自分の意見をまとめ発表する姿に驚きと頼もしさを感じました。もちろん基礎となる知識は必要ですが、常に自分としてこの課題をどう捉えるかと反芻する学習法は、イノベティブな人材を育てるとの期待がもてました。

アクティブ・ラーニングをより機能させるための学生姿勢としては、地球温暖化対策の国際会議で行われた「タラノア対話」の3つの視点が有効だと考えます。それは、①我々はどこにいるのか。②どこへ行きたいのか。③どうやって行くのか。です。

いまや世界的潮流であるSDGsは、今、持っている知識や資源を総動員して社会課題を解決しようとするもので、従来型の教育では対応しきれないものだと感じました。

1年間という短い時間でしたが、若い学生と机を並べ、アクティブ・ラーニングを体験し、未来に希望が持てた気がしました。ありがとうございました。

注※ これは、中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」の中に出てくる言葉であり、大学教育の在り方について使われる用語でした。答申では、次のように記されています。

「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」

宇都宮大学の全てのシラバスには、アクティブ・ラーニングの度合いを示す指標(AL度)が設けられており、積極的に進められています。(注は、カレッジ事務局)



(写真は、7月6日の中間ふりかえりの際に、学びの成果を発表される三宅徹治さん)

## 同志との出逢い、語り合い、つながる心地よさ

### 中間ふりかえり(2018年12月15日)実施

12月15日(土)13時からいつもの峰町5号館5C21教室で50名が参加して、中間ふりかえり会を実施しました。カレッジ事務局では天沼、橘川、廣瀬が担当しました。

今後の日程説明やアンケートのあと、受講者は5人1グループに分かれて、①簡単な自己紹介②お互いの授業の様子③来年度前期の受講予定科目などを順に話しをしながら、相互の交流を深めました。その後、グループでどんな話が出たのかを発表していただき、交流を深めました。受講者の方々にふりかえりの感想を書いてもらいました。

情報交換は大切だと感じた。他の参加者の考えもわかり良かった。経験の交流は驚きと共感を与えた。多様な受講者がいて、意見交換できて良かった。1人で受講しているので交流できて良かった。このような機会があればうれしい。他の授業の情報が聞けて参考になった。有意義な時間でした。貴重な情報を聞くことができた。交流の場の提供は良いアイデアだと思う。次回の選択に生かしたい内容でした。学びは生の原動力ということがわかった。他の講義の内容を知ることができた。思った以上に他の受講者がまじめで努力していることがわかった。メンバーの大半が前向きで積極的であり刺激を得た。地域に役立てるという気持ちが湧いた。同じ目的で学ぶ仲間という気持ちが持てた。他の受講者の思いや違いなどを学ぶことができた。

——— 受講者の感想から ———

## College Episode

■地域デザイン科学部の石井大一郎先生の「まちづくり論」。カレッジ受講者7名は今期で最も多い科目です。地域デザイン科学部3学科の学生の大半が受講する科目ということもあって、狭い教室は学生でいっぱいですが、学生との交流を進めながら授業が展開されています。授業では歴史や理論だけではなく、多様なゲスト講師を招いて授業が立体的に構成されています。まちづくりという現場感覚を大切にしながら、受講者の経験をふりかえることができる授業です。7名の受講者同士の交流も盛んで先生を招いての忘年会も開催しました。■

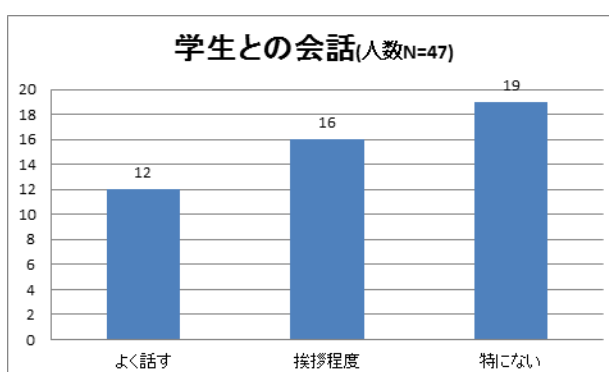
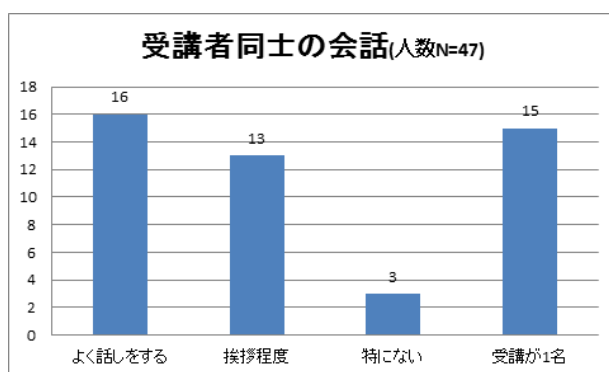
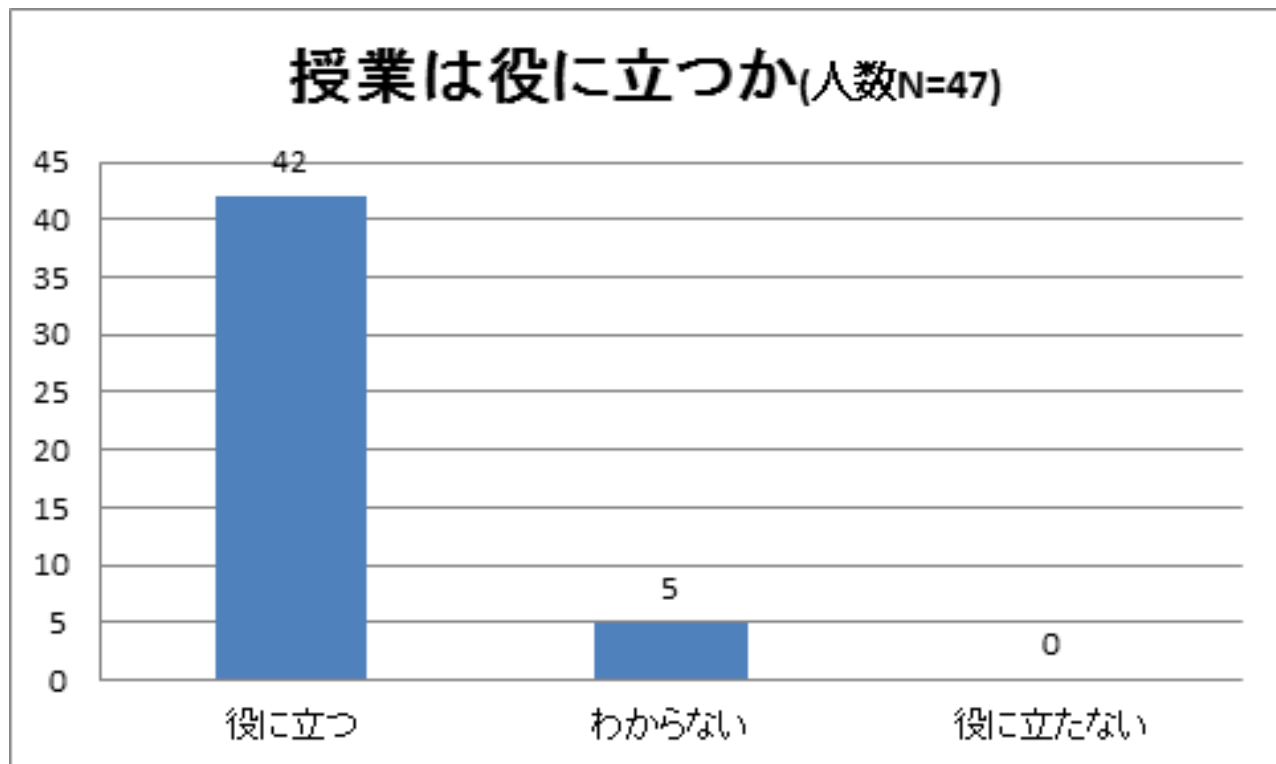
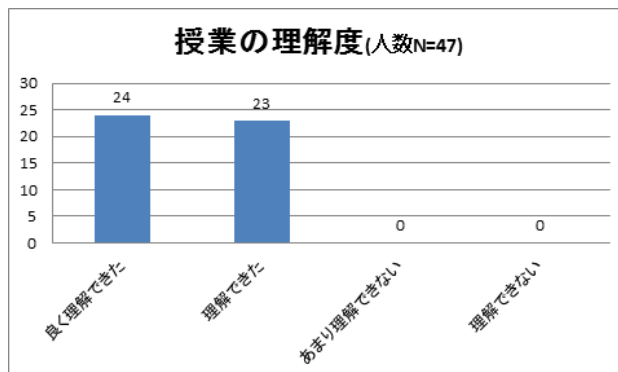
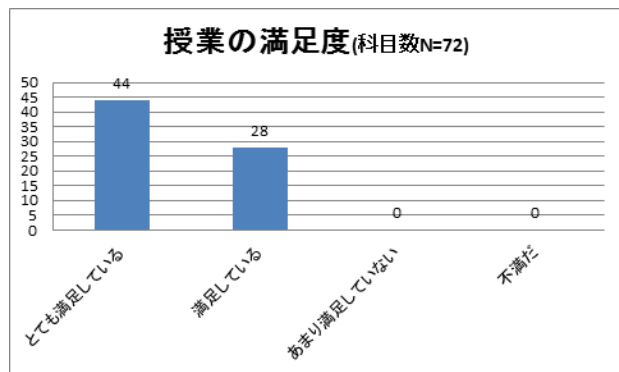


■同じく地域デザイン科学部の大森玲子先生の「食物科学」は、学生も20名以下の少人数授業。カレッジ受講者は3名。大森先生の朗らかな性格と身近な題材を取り上げた授業に受講者の方々も魅了されています。

毎回スライドでの丁寧な授業だけでなく、社会人のカレッジ受講者にも細やかな配慮をされています。授業終了後は自主的に図書館に出向き調べ物をするなど学習意欲も喚起されているようです。また、カレッジ受講者の方々がごぼうや大根などを使った昭和の香りのする料理をつくり、持ち寄りみんなで試食するなどあっという間に時間が過ぎる授業のようです。■



## 2018/12/15中間アンケート調査報告(回答者47人)



12月15日の中間ふりかえりの際に集約したアンケート調査の一部を掲載しました。全ての受講者が授業を理解し、満足し、かつその内容は役に立つと感じていることがわかりました。

また、半数以上の方々が図書館を利用しており、指定された教科書も購入していました。

また、別のデータでは、54名の受講者中、公開講座の受講経験者は25名(46.2%)でした。

受講者の高い満足度は、本学教員の質の高い調査研究に裏付けられた理解しやすい授業がこうした評価につながったものと思われます。受講者の高い学習意欲が背景にあるものと考えられます。